

平成 28 年度 第 3 回 FD/SD 研修会

大学教育センター教育開発部門

平成 28 年 11 月 4 日（金）、本年度第 3 回 FD/SD 研修会を福山大学会館 ICT 教室（CLAFT）で開催しました。第 3 回は、institutional research (IR) をテーマとして、立命館大学大学評価室／教育開発推進機構教授鳥居朋子先生を講師にお招きして、職員合同の参加型研修会として開催しました。「リサーチクエスチョンから始める IR のステップ —教育改善に向けた有効なデータ活用—」というタイトルで、2 部構成の研修会となりました。

パート 1：レクチャー 「教学 IR の開発事例を手がかりに」

レクチャーでは、我が国では、IR が内部質保証システムの構築への関心の高まりと並行して、さまざまな高等教育機関に取り入れられるようになったこと、米国では IR が卒業率等の向上だけでなく、学習効果測定に貢献しているのに対して、我が国では IR の機能が分散しており、大学の意思決定に必ずしも反映されていないことなど、IR に関する現状などの説明がなされました。

さらに、IR 実践のための 5 つのステップに関する説明がなされた後、IR 実践におけるリサーチクエスチョンの重要性について、米国ペンシルベニア大学や立命館大学における事例を紹介しながら説明が行われました。



さらに、学習成果説明のための仮説モデル、学びの実態の可視化、6つの学習スタイルの特徴、成長の可視化とカリキュラムの検証、学生調査と教育改善のリンク、教育改善のリサーチクエスチョン（RQ）と活用データの広がり、学生調査の可能性と限界、内部質保証へのさらなる挑戦などについて、立命館大学での実例などを挙げながら説明がなされました。

パート2：ワークショップ 「リサーチクエスチョンの開発」

パート2では、最初に原因の探索と方法の開発、リサーチクエスチョン（RQ）とクリニカル・クエスチョン（CQ）、CQを洗練化してRQにする、必要なデータと仮説を考える、教学領域と企画・経営領域など、グループワークに必要な項目の説明がなされました。この説明に続いて、参加者は福山大学の改善に繋がるリサーチクエスチョンの作成に、以下のような流れで取り組みました。

グループワークの流れ

1. テーマを選ぶ
2. CQを考え共有する
3. CQをRQに作り替える
4. 必要なデータを考える
5. 仮説を立てる





このグループワークで、各グループから次のようなテーマが出されました。

1. 卒業後に母校を誇る学生を増やす
2. 学生の満足度を高める
3. 授業外学習時間を増やす
4. 大学の志願者を増やす
5. 学生の就職の質を向上させる
6. 大学の志願者を増やす
7. 授業外学習時間を増やす
8. 授業外学習時間を増やす
9. 学生の満足度を高める
10. 大学の志願者を増やす

各グループでは、それぞれのテーマに沿ってグループワークを進め、最後は発表することで状況の共有を行いました。





参加者の方からは、教員と事務員が同じグループでワークをする体験は新鮮だった、実際にプロダクトを作製することで理解が深まった、など教職員合同の参加型 FD/SD 研修会に対して好意的な意見がたくさん寄せられました。

本研修会は、今後の本学の IR の取り組みに大きく寄与するものと考えます。

(記：田村 豊)